



Title	「キャンパスライフレス」が新入生に与える心理的影響
Author(s)	
Citation	令和2（2020）年度学部学生による自主研究奨励事業 研究成果報告書．2021
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80635
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

令和2年度大阪大学未来基金「学部学生による自主研究奨励事業」研究成果報告書

ふりがな 氏名	だい ひろき 戴 宇熙	学部 学科	人間科学部	学年	1 年
ふりがな 共同 研究者氏名		学部 学科		学年	年
					年
					年
アドバイザー教員 氏名	村上正行	所属	全学教育推進機構 (人間科学研究科兼任)		
研究課題名	「キャンパスライフレス」が新入生に与える心理的影響				
研究成果の概要	研究目的、研究計画、研究方法、研究経過、研究成果等について記述すること。必要に応じて用紙を追加してもよい。(先行する研究を引用する場合は、「阪大生のためのアカデミックライティング入門」に従い、盗作剽窃にならないように引用部分を明示し文末に参考文献リストをつけること。)				
1. 研究目的 2020 年、新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19 とする）の影響により、多くの教育機関では対面授業や課外活動を中心に、多くの活動が規制されている。そのため、学生、特に新入生は本来とは異なるキャンパスライフを強いられ、不安を抱いていると推測される。本研究では、このような通常のキャンパス生活（対面授業や部活動など）ができない状況を「キャンパスライフレス」と定義した上で、新入生に与える心理的影響をアンケート調査やインタビュー調査を行い、分析した結果に基づいて、COVID-19 以後のニューノーマルな大学生活を提案することを目的とする。 2. 研究方法 まず、本研究ではキャンパスライフレスによる大学生の心理状態を把握するために、学習面、生活面、対人面の 3 つの観点を立ててアンケート調査を実施した。質問内容はそれぞれ、「オンライン授業による影響」、「キャンパスライフレスによる課外活動への影響」、「オンライン上での友人構築や人間関係」などである。学習面のアンケート項目の一部において、“大阪大学 COVID-19 に関わる新学期授業支援対策チーム”が 2020 年 5 月および 8 月に実施したアンケート^[1]から質問項目を引用した。調査には Google Forms を用い、アンケート対象は大阪大学 1 年生（人間科学部、理学部、医学部）及び 2 年生（人間科学部、外国語学部、工学部）とした。また、2 年生に対しては、2 年次（現在）及び 1 年次（2019 年度）それぞれの時期について回答していただいた。 次に、アンケート調査では把握できない実際の事例などを調べるため、アンケート調査で得られたデータをもとに、COVID-19 における不安感が高かった、もしくは低かった対象者の中から、5 名（男性 2 名、女性 3 名）を抽出し、半構造化インタビューを実施した。調査時間は一人当たり 30 分程度であった。 アンケートとインタビューを実施する際には、事前に研究の目的、協力の任意性、記録の許可、その他倫理的配慮に関する説明を行い、同意を得ている。 アンケート調査は学部ごとに 8 月から 9 月の 2 週間に設定し、インタビュー調査は 12 月に実施し					

た。

3. アンケート調査の結果

3-1. アンケート調査の概要

回収できた105名のアンケートのうち、回答に欠損のない103名（1年生70名、2年生33名）を分析対象とした。1年生70名のうち、学部は人間科学部41名、理学部14名、医学部14名、未回答1名であり、性別は男性28名、女性39名、回答しない2名、未回答1名であった。2年生33名のうち、学部は人間科学部22名、外国語学部5名、工学部6名であり、性別は男性12名、女性21名であった。

本アンケートでは、それぞれの質問項目に対し4件法（1.当てはまらない、2.あまり当てはまらない、3.やや当てはまる、4.当てはまる）を用い、回答を得点化した（一部例外あり）¹。また、COVID-19の影響による特別な環境下での調査であったため、従来のものとは異なる、独自の測定尺度を用いて調査を行った。

学部1年生の学習面の各項目での平均値、標準偏差、相関係数を表1と表2で示した。表1はオンライン授業（以下ONL授業）全般について、表2はONL授業の形態についてまとめた。また、生活面と対人面の各項目について、それぞれ表3、表4にまとめた。以下、学習面に関する質問をA、生活面に関する質問をB、対人面に関する質問をCとして表に記している（例えばA-①は学習面の項目で①の質問を表している）。本研究では相関分析を用い、 $p < .05$ の時に相関ありと判断とする。学部2年生については別添資料を参考されたい。

3-2. 学習面

表1 学習面における項目と相関

質問項目（学習面）	平均値	標準偏差	相関係数										
			A-①	A-②	A-③	A-④	A-⑤	A-⑥	A-⑦	A-⑧	A-⑨	A-⑩	A-⑪
①オンライン授業に苦手意識がある。	2.54	1.05	—										
②オンライン授業では先生に質問しやすい。	1.83	0.95	-.281*	—									
③オンライン授業では友達に相談しにくい。	3.46	0.91	.162	.074	—								
④オンライン授業では課題が多いように感じる。	3.63	0.64	.262*	.154	.171	—							
⑤オンライン授業では問題と非問題型があり受講のペースがつかみにくい。	3.11	0.93	.384**	.087	.160	.219*	—						
⑥オンライン授業では集中力が持続しない。	3.47	0.79	.403**	-.139	.199*	.178	.340**	—					
⑦オンライン授業で学習成果が身につくか不安である。	3.41	0.81	.399**	-.187	.408**	.022	.207*	.641**	—				
⑧オンライン授業では成績が心配である。（単位、GPA等）	2.87	1.10	.300*	-.226*	.232*	.219*	.228*	.451**	.517**	—			
⑨簡易版を使用できない（できなかった）ことは不便である。	3.24	1.00	.261*	-.122	.497**	.211*	.189	.365**	.323**	.318**	—		
⑩全体的に振り返って、オンライン授業には満足している。	2.34	0.92	-.546**	.232*	-.208*	-.225*	-.133	-.465**	-.430**	-.243*	-.346**	—	

** $p < .01$, * $p < .05$

表1から、①オンライン授業（以下ONL授業）への苦手意識と⑩ONL授業の満足度には負の相関がみられた。 $(r = -.55, p < .01)$ しかし、ONL授業に苦手意識がある学生は53%であったことから、苦手意識を持たず、ONL授業に満足度を得た学生も同数程度、存在することがわかった。

表2 オンライン授業の満足度と授業形態との相関

質問項目（学習面）	平均値	標準偏差	相関係数				
			A-⑩	A-⑩-1	A-⑩-2	A-⑩-3	A-⑩-4
⑩全体的に振り返って、オンライン授業には満足している。	2.34	0.92	—				
1. テキスト講義：CLEに講義資料をアップロード	2.25	1.02	.363**	—			
2. スライド講義：CLEにスライド映像や音声アップロード	2.78	0.84	.382**	.684**	—		
3. 授業映像：CLEに授業映像（教員の映像あり）をアップロード	3.06	0.78	.363**	.515**	.766**	—	
4. スライド講義：リアルタイムでスライドfor音声を配信（基本的に教員の映像はない）	2.70	0.90	.257*	.381**	.368**	.449**	—
5. 動画講義：リアルタイムで授業映像を配信	3.07	0.94	.158	-.130	.073	.177	.168

** $p < .01$, * $p < .05$

表2に示すように、⑩ONL授業に満足している、と各ONL授業形態の相関を取ったところ、オン

デマンドの授業形態すべてにおいて正の相関を得た。また、リアルタイム授業ではスライドもしくは音声のみを配信する授業において正の相関を得たが、Zoom 等を用いる双方向授業は ONL 授業の満足度に寄与していなかった。

3-3. 生活面

表 3 生活面における項目と相関

質問項目（生活面）	平均値	標準偏差	相関係数							
			B-①	B-②	B-③	B-④	B-⑤	B-⑥	B-⑦	B-⑧
①大学でクラブ、サークルに所属する予定である。	3.59	0.84	—							
②どのクラブ、サークルに所属するか目星をつけている。	3.10	1.17	.734 **	—						
③コロナ禍による影響のせいでクラブ、サークルについて不安がある。	3.33	1.02	.229 *	-.004	—					
④オンライン新歓に積極的に参加している。	1.74	1.00	.267 *	.344 **	.127	—				
⑤クラブ、サークルはオンラインを活用することでよりよくなると思う。	2.41	0.88	.153	.300 *	-.261 *	.380 **	—			
⑥クラブ、サークルに関する情報が少ないと思う。	3.17	0.83	.123	-.048	.394 **	.036	-.210 *	—		
⑦コロナ禍による影響のせいで課外活動（クラブ、サークルを除く）について不安がある。	3.40	0.84	.196	.121	.454 **	.141	-.098	.211 *	—	
⑧留学やボランティア活動等を実践しにくいのは残念である。	3.07	0.95	.290 *	.033	.140	.171	.094	.149	.271 *	—

** $p < .01$, * $p < .05$

表 3 から、③「クラブ、サークルについて不安がある」と⑥「クラブ、サークルに関する情報が少ないと思う」には正の相関がみられた ($r = .39, p < .01$)。この結果から、クラブ、サークルの活動に不安感があつた原因として、情報量の不足が考えられる。また、④「オンライン新歓に積極的に参加している」と⑤「クラブ、サークルはオンラインを活用することでよりよくなる」の相関を取ったところ、正の相関を得た ($r = .38, p < .01$) ことから、オンラインを利用した学生は、オンラインの活用可能性を感じていることがわかった。

3-4. 対人面

表 4 対人面における項目と相関

質問項目（対人面）	平均値	標準偏差	相関係数							
			C-①	C-②	C-③	C-④	C-⑤	C-⑥	C-⑦	C-⑧
①入学後、友達と呼べる人は何人できましたか。	3.75	4.73	—							
②入学後、先輩の知り合いは何人できましたか。	2.65	5.79	.433 **	—						
③キャンパスライフにおいて友達は大切だと思う。	3.90	0.39	.145	.017	—					
④キャンパスライフにおいて先輩、後輩との関わりは大切であると思う。	3.85	0.43	.169	.044	.879 **	—				
⑤友達作りは対面で行いたい。	3.89	0.32	-.019	-.038	.375 **	.303 *	—			
⑥オンライン上での人間関係はストレスが少ない。	2.00	1.02	-.221 *	-.022	-.257 *	-.233 *	-.133	—		
⑦オンライン上での人間関係は深まらないと思う。	3.51	0.76	-.095	-.220 *	.179	.141	.366 **	-.038	—	
⑧友達との関わりはオンラインで十分だと思う。	1.43	0.76	-.181	.128	-.298 *	-.256 *	-.152	.277 *	-.082	—

** $p < .01$, * $p < .05$

表 4 より、オンライン上では人間関係を構築しにくいと感じていることが明らかとなった。「⑤ 友達作りは対面で行いたい」と回答した学生は全体の 89%を占めており、「⑦ オンライン上での人間関係は深まらない」との相関を取ったところ、正の相関を得た ($r = .37, p < .01$)。これらの結果から、深い人間関係を得るためには、対面での交流が必要であると考えられる学生の心理が明らかとなった。

4. インタビュー調査の結果

図 1 に簡略なインタビュー調査の内容を示す。詳細なインタビュー調査の内容は別添資料を参照されたい。

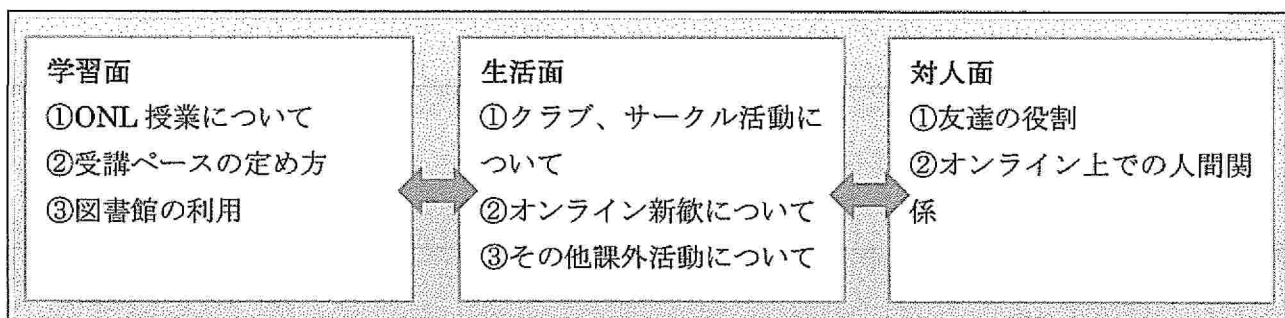


図 1 インタビュー調査の内容

以上の調査を通して、キャンパスライフが新入生に与えた影響は《実生活での孤独性》としてカテゴリー化された。これは学習面、生活面、対人面から表出されたサブカテゴリーを包括した結果である。以下に学習面、生活面、対人面と《実生活での孤独性》の関連を表した構造図を図 2 に示す。

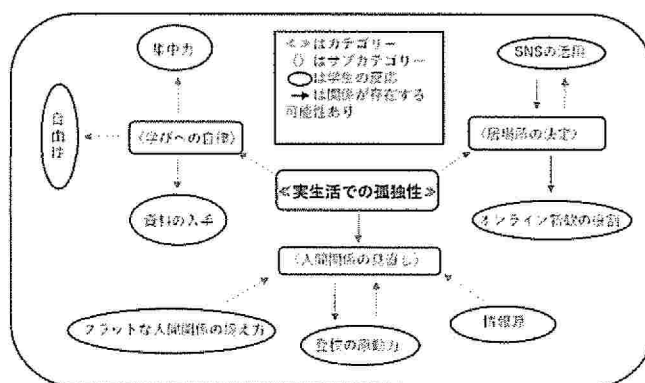


図 2 インタビュー調査に基づく構造図

まず、《実生活での孤独性》を見出した背景には、各方面からのサブカテゴリーの存在がある。学習面では ONL 授業、受講ペース、図書館の利用それぞれに「集中力の持続」、「受講ペースの自由性」、「参考資料の入手方法」という学生の行動の特徴が見出された。ともに学生が主体的に決定することができる項目であり、学習意欲の高低に関わらず個人間で大きな差がみられた。ここから、キャンパスライフに伴う ONL 授業では、学生により〈学びへの自律〉を促したと考えられる。千葉大学教育学部附属小学校『オンライン学習でできること、できないこと』^[2]によると、ONL 授業は「個人のペースが確保される」と述べられており、対面授業だと問うことができなかった疑問まで、学生の意志で深掘りできる可能性がある。しかし、インタビュー調査では、《実生活での孤独性》は学生に様々な誘惑を与え、学びの自律を達成できなかったという課題を表出させた。

生活面では、クラブ、サークル活動や他の課外活動を通して大学生活（キャンパスライフに限らない）での〈居場所の決定〉を担う役割が見いだされた。居場所を決定するために、学生は SNS やオンライン新歓を用いて情報を収集していたが、オンライン新歓では所属を希望する団体の雰囲気がわからないことが課題として挙げられた。

対人面では、対面での人間関係がいかに大切であるかが明らかとなった。特に ONL 授業と選択可能である状況において、友人と会えることが「登校の原動力」になっていると回答した学生が複数存在し、オンライン上での関係に限界を示した。しかし、人間関係を構築するきっかけが Zoom 等のアプリであったことも明らかとなったため、使用方法を工夫することで人間関係を深める手助けになる可能性がある。また、オンライン上での人間関係への考え方には相違が生じた。オンライン上での希

薄な人間関係において、無理に人間関係を保とうとする学生は「ストレスが多い」と述べ、人のことを気にしないでよいと考える学生は「ストレスが少ない」と述べた。

5. 考察と結論

本研究では「キャンパスライフレス」が新入生に対して、学習面、生活面、対人面において様々な影響を及ぼしているという仮説のもと、研究を行ってきた。これまで説明してきたアンケート調査及びインタビュー調査の結果を通して、学生の心理状態について考察を行う。

5-1. キャンパスライフレスによる学生の心理への影響

学習面では、ONL 授業に苦手意識を持つ学生とそうでない学生、及び、ONL 授業全体を通して満足している学生とそうでない学生がそれぞれ約半数であったことから、学生の心理が必ずしもマイナスに働くとは限らない。また、ONL 授業の授業形式や環境に対する不満や、〈学びの自律〉の個人差がみられたことから、対面授業よりも学習に対する生徒の受け止め方に差が生じやすいことが示唆された。これも学生の心理状態を一樣に変化させなかった要因であろう。

生活面では、クラブ、サークル等の情報の少なさが原因となって不安と感じている学生が多く存在したことや、それに伴って課外活動を通して行われる〈居場所の決定〉が行いづらかったことにより、学生の心理はマイナスに働いたと考えられる。アフターコロナでは、まず、学生の居場所の構築を重視した活動作りを再開していく必要があると言えるだろう。

対人面では、1年生、2年生（1年次）のアンケート結果より、オンライン上の関係のほうが対面よりもストレスがかかることが明らかとなったため、学生の心理はマイナスに働いたと考えられる。インタビュー調査においても、友人関係は大学へ行く原動力になることを確認できたため、人間関係を深める上でも非常に大切な要素となることが明らかとなった。

5-2. 教育側の視点から見たキャンパスライフレスの問題点

学習面では、《実生活での孤独性》が引き起こす〈学びの自律〉の阻害には個人差があることを確認した。これは、授業形態や環境が引き起こした一時的な現象であるかについて、継続的な調査が必要であると考ええる。

生活面ではクラブ、サークル活動の制限がキャンパスライフレスの大きな弊害であることが明らかとなった。所属する活動が制限されることは、大学生活の質の低下に直結し、学生は居場所を構築することが困難となることから、《実生活での孤独性》をさらに加速させる可能性がある。ただし、COVID-19 が完全収束するまでは、オンライン上での活動をより充実させる方法を検討することで、孤独性を緩和することも大切になるだろう。

対人面では、対面での人間関係の構築の大切さが明らかとなった。したがって、キャンパスライフレスである限りは関係性の深い人間関係は築きにくい。完全にキャンパスライフレスな学部もあることから、早急に感染症対策を行い、対面を実現することが望まれる。

5-3. 今後のキャンパスライフのあり方

COVID-19 後の新しいキャンパスライフのあるべき姿を以下のように考える。

学習面では ONL 授業と対面授業のハイブリッド型が求められるだろう。その際に意識しなければならないことは、学生が主体的に学ぶ環境を構築することである。自ら受講ペースを定めることのできるオンデマンド型の授業を ONL 授業の特徴とすることで、対面とオンラインの特性を生かせると

考える。

生活面では、課外活動自体は対面での実施を原則とすべきであろう。クラブ、サークル活動のみならず、留学やボランティア活動なども対面で実施することで自らの居場所を決定する一助となる。

対人面では、対面での人間関係の重要性が明らかになったことから、大学主体でオンライン上の関わりを促進する必要はないであろう。ただし、20 代以下の人にとってインターネットは人間関係形成のために利用したいと思わせるメディアであることから（西村，2003）^{〔3〕}、新たな関係を構築するきっかけとして、Zoom 等の交流会は有効である可能性があり、入学式前後に行うことは検討すべきと考える。

5-4. 本研究の課題

本研究での課題として、本研究の調査対象は大阪大学の学部 1 年生及び 2 年生のみであり、対象範囲及びサンプル数ともに今後のキャンパスライフのあり方を提言するには不十分であったことが挙げられる。また、作成した構造図は因子分析など専門的な手法を用いておらず、それぞれの関係性は推測の域をすぎない。今後はサンプル数、調査対象を拡大したうえで、より専門的な手法を用いて継続的な研究を行いたい。

注釈

1 部例外あり：2 年生のアンケート内において、一部誤って 5 件法を用いた部分があったため、3（どちらでもない）の回答を分析対象から外した。

参考文献

- 〔1〕 COVID-19 に関わる新学期授業支援対策チーム。「メディア授業に関するアンケート」
- 〔2〕 千葉大学教育学部附属小学校。「オンライン学習でできること、できないこと 新しい学習様式への挑戦」。明治図書，2020.
- 〔3〕 西村洋一。「対人不安、インターネット利用、およびインターネットにおける人間関係」。社会心理学研究 19（2）124-134 2003.

別添資料

1. アンケート結果 (2 年生)

1-1. 2 年生 1 年次

表 1 学習面における項目と相関

質問項目 (学習面)	平均値	標準偏差	相関係数									
			A-①	A-②	A-③	A-④	A-⑤	A-⑥	A-⑦	A-⑧	A-⑨	A-⑩
①オンライン授業に若干満足がある。	2.61	0.85	—									
②オンライン授業では先生に質問しやすい。	2.03	0.95	-.251	—								
③オンライン授業では友達に相談しにくい。	2.91	1.07	.230	-.181	—							
④オンライン授業では課題が多いように感じる。	3.55	0.87	.253	-.247	.223	—						
⑤オンライン授業では問題型と非問題型があり受講のペースがつかみにくい。	3.09	0.88	.254	-.377 *	.341 *	.506 **	—					
⑥オンライン授業では集中力が持続しない。	3.39	0.75	.393 *	-.325 *	.202	-.332 *	.515 **	—				
⑦オンライン授業で学習成果が身につくか不安である。	3.00	0.90	.401 *	-.437 *	.000	.239	.434 *	.649 **	—			
⑧オンライン授業では成績が心配である。(単位、GPA等)	2.42	1.05	.426 *	-.137	.310 *	.215	.460 **	.492 **	.523 **	—		
⑨図書館を使用できない(できなかった)ことは不便である。	3.18	0.92	.330 *	.065	.081	.029	.095	.348 *	.265	.239	—	
⑩全体的に振り返って、オンライン授業には満足している。	2.36	0.78	-.659 **	.404 *	.003	-.346 *	-.322 *	-.466 **	-.620 **	-.304 *	-.269	—

表 2 オンライン授業の満足度と授業形態との相関

質問項目 (学習面)	平均値	標準偏差	相関係数					
			A-⑩	A-⑩-1	A-⑩-2	A-⑩-3	A-⑩-4	A-⑩-5
⑩全体的に振り返って、オンライン授業には満足している。	2.36	0.78	—					
1. テキスト講義: CLEに講義資料をアップロード	2.59	1.15	.501 **	—				
2. スライド講義: CLEにスライド映像や音声をアップロード	2.84	1.07	.650 **	.510 *	—			
3. 授業映像: CLEに授業映像(教員の映像あり)をアップロード	3.35	1.23	.637 **	.423 *	.536 *	—		
4. スライド講義: リアルタイムでスライドor音声を配信(基本的に教員の映像はない)	2.95	1.13	.297	.124	.709 **	.760 **	—	
5. 動画講義: リアルタイムで授業映像を配信	3.32	1.14	.386 *	.312	.557 *	.793 **	.796 **	—

表 3 生活面における項目と相関

質問項目 (生活面)	平均値	標準偏差	相関係数							
			B-①	B-②	B-③	B-④	B-⑤	B-⑥	B-⑦	
①大学でクラブ、サークルに所属している。	---	---	---							
②コロナ禍による影響のせいでクラブ、サークルについて不安がある。	3.39	0.88	---	—						
③所属しているクラブ、サークルはオンライン新款を積極的に開催している。	2.61	1.05	---	.095	—					
④クラブ、サークルはオンラインを活用することでよりよくなると思う。	2.32	0.94	---	.085	.330 *	—				
⑤クラブ、サークルに関する情報を発信する機会が少ないと思う。	3.39	0.80	---	.064	.143	-.126	—			
⑥コロナ禍による影響のせいで課外活動(クラブ、サークルを除く)について不安がある。	2.73	1.01	---	.227	-.125	.086	-.255	—		
⑦留学やボランティア活動等を実施しにくいのは残念である。	3.29	0.94	---	.044	-.071	-.054	.093	.437 *	—	

表 4 対人面における項目と相関

質問項目 (対人面)	平均値	標準偏差	相関係数					
			C-①	C-②	C-③	C-④	C-⑤	C-⑥
①入学後、後輩の知り合いは何人できましたか。	2.77	3.78	—					
②キャンパスライフにおいて友達は大切だと思う。	3.85	0.44	.135	—				
③キャンパスライフにおいて先輩、後輩との関わりは大切であると思う。	3.61	0.56	.101	.641 **	—			
④オンライン上での人間関係はストレスが少ない。	2.03	0.85	-.189	.013	-.239	—		
⑤オンライン上での人間関係は深まらないと思う。	3.27	0.91	.039	.261	.404 *	-.376 *	—	
⑥友達との関わりはオンラインで十分だと思う。	1.39	0.61	-.229	-.352 *	-.543 **	.339 *	-.255	—

1-2. 2 年生 1 年次

表 5 学習面における項目と相関

質問項目 (学習面)	平均値	標準偏差	相関係数									
			A-①	A-②	A-③	A-④	A-⑤	A-⑥	A-⑦	A-⑧	A-⑨	A-⑩
①授業でわからないことがあったら積極的に先生に質問していた。	2.00	0.76	—									
②授業でわからないことがあったら積極的に友達に相談していた。	3.66	0.55	.000	—								
③授業後の課題は多く感じた。	2.50	0.95	.356 *	.280	—							
④授業はシラバス通り進んでいた。	3.19	0.65	-.055	.088	-.204	—						
⑤授業中は集中力が持続していた。	2.75	0.72	.354 *	-.062	.283	-.241	—					
⑥学習成果が身につくか不安だった。	2.47	0.80	-.369 *	.055	-.063	-.057	-.406 *	—				
⑦成績について心配していた。(単位、GPA等)	2.72	0.99	-.043	.054	.394 *	.088	.260	.293	—			
⑧図書館を積極的に利用していた。	3.03	1.00	.424 *	-.039	.153	-.051	.460 **	-.501 **	.074	—		

表6 生活面における項目と相関

質問項目（生活面）	平均値	標準偏差	相関係数					
			B-①	B-②	B-③	B-④	B-⑤	B-⑥
①クラブ、サークルについて不安があった。	1.72	0.89	—					
②どのクラブ、サークルに所属するか目星をつけていたもしくは所属していた（6月時点）。	3.81	0.54	.021	—				
③クラブ、サークルに関する情報は十分であった。	3.41	0.67	-.183	.312 *	—			
④新歓に積極的に参加した。	3.00	0.95	.191	.317 *	.255	—		
⑤課外活動（クラブ、サークルを除く）について不安があった。	2.00	0.86	.654 **	-.143	-.174	.363 *	—	
⑥留学やボランティア活動等に積極的に参加した。	1.73	0.87	.094	.245	-.148	.155	.106	—

表7 対人面における項目と相関

質問項目（対人面）	平均値	標準偏差	相関係数					
			C-①	C-②	C-③	C-④	C-⑤	C-⑥
①入学後、7月までに友達と呼べる人は何人できましたか。	24.2	22.6	—					
②入学後、7月までに先輩の知り合いは何人できましたか。	17.7	14.7	.647 **	—				
③キャンパスライフにおいて友達は大切だと思っていた。	3.84	0.45	.001	-.067	—			
④キャンパスライフにおいて先輩、後輩との関わりは大切であると思っていた。	3.69	0.59	.058	-.008	.783 **	—		
⑤友達作りでストレスを感じることが多かった。	2.47	0.98	-.410 *	-.253	-.048	-.017	—	
⑥表面だけの付き合いになる友達が多かったように思う。	2.59	0.87	-.201	-.169	.244	.121	.379 *	—

2. インタビュー調査

インタビュー調査は以下の内容で行った。

質問
オンライン授業に苦手意識があると答えていただきましたが、どのような点が苦手だと感じましたか。
オンライン授業に苦手意識はないと答えていただきましたが、苦手だと感じなかった理由みたいなものはありますか。もしくはオンライン授業のここが好きだというポイントはありますか。
オンライン授業では先生に対して質問しやすいと回答していただきましたが、対面の時と比べてどのような点に質問のしやすさを感じましたか。
オンライン授業では先生に対して質問しにくいと回答していただきましたが、対面の時と比べてどのような点に質問のしにくさを感じますか。
オンライン授業で友達に質問しやすいと感じた理由がありますか。
オンライン授業だとしても受講ペースを定めにくいとは感じない理由がありますか。
オンライン授業だと受講ペースを定めにくいと感じたことに関して理由がありますか。
どのような時にオンライン授業では集中力が続かないと感じますか。
オンライン授業では集中力が持続すると回答していますが、持続させる秘訣などがありますか。
学習成果に不安を感じながらも、成績自体には不安を感じていなかったみたいですが、そのことについて何か理由がありますか。
図書館を利用できなかったことについて不便を感じていなかったみたいですが、レポートを書く際など図書館とは別の手段で参考文献などを集めていたのでしょうか。
図書館を利用できなかったことでどのような場面で不便だと感じましたか。
前期のオンライン授業を全体的に振り返ると満足できないと回答されていますが、今まで質問

項目として尋ねたこと以外で満足できない要素などありましたか。
前期のオンライン授業を全体的に振り返ると、おおむね満足できると回答していただきましたが、今までの質問項目以外で満足できる要素などありましたか。
オンライン授業の中で最も好きな形態と嫌いな形態を教えてください。
現在は対面授業が再開され、キャンパスに登校する機会も増えたと思いますが、対面授業とオンライン授業に違いは感じていますか。また、どのような違いがあると思いますか。
どのクラブ、サークルに所属するかを決めたのはいつ頃ですか。
コロナ禍による影響でクラブ、サークルについて不安があると回答していただきましたが、どのような点に不安を抱えていましたか。
オンライン新歓には積極的に参加しましたか。→①オンライン新歓に積極的にしなかった理由は何ですか。②オンライン新歓に参加することによってよかったと感じることは何ですか。
コロナ禍において課外活動がかなり制限されていますが、どのような点に不安を感じていますか。
対面授業が始まってから友達や顔なじみが増えたと思いますが、完全オンライン授業だった前期は友達を作るのが非常に難しかったと思います。その中で出会った友達はどのように作りましたか。
多くの人がキャンパスライフでは友達が大切であると感じているようですが、〇〇さんにとって大学生活上の友達の役割はどのような点にあると感じていますか。
オンライン上での人間関係はストレスが多いと回答していますが、どのようなところにストレスを感じましたか。
オンライン上での人間関係は比較的ストレスが少ないと回答されていますが、ストレスが少ない原因はどこにあると感じていますか。
多くの人が友達や先輩との関わりは大切であると回答していますが、どのような点において大切であると考えていますか。
コロナウイルスが再拡大していますが、感染に関する不安はありますか。どのような時に不安に感じますか。